婦人と新社會

山田わか主筆

五月號

每月一回一日發行　第二拾七號　大正十一年五月一日發行

知識と宗教

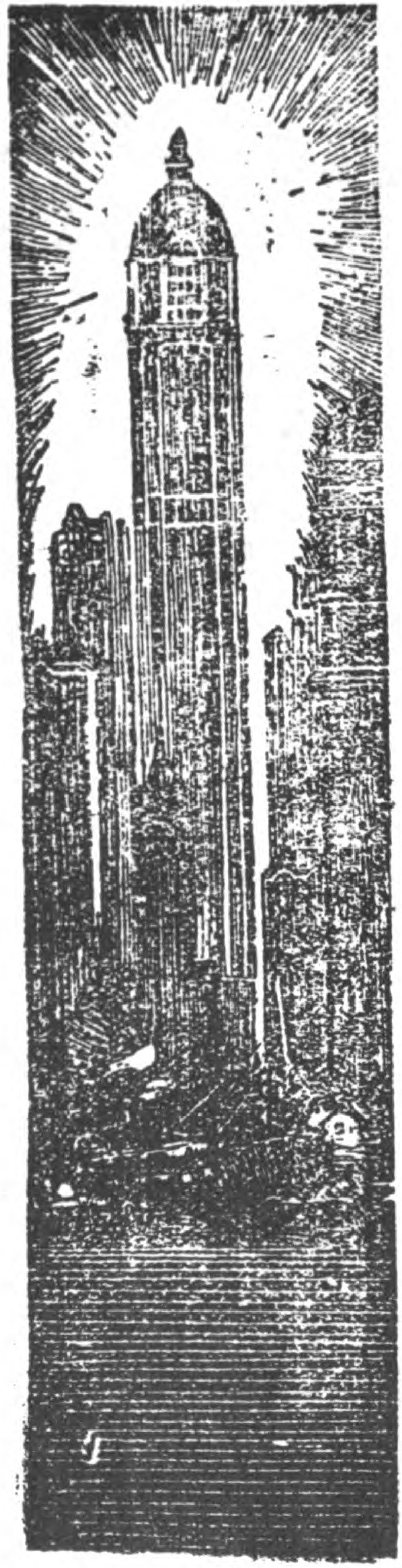
世の中が進めば進む程知識慾は盛んになります。そして、一切の問題が知識で解決されると考へるようになります、知識、知識は人間生活のためには重用であり、多くの問題を解決するになくてならないものです。

けれども、此處に、記憶せればならない事は、たとへ、最高知識でも倫理的權威としては甚だ不完全なものです。ものは微分子から出來てゐると云ふこと、ものの發端は火であり、水であり、土であると云ふことが分つても、善と惡の性質が明瞭になつても、好きと嫌ひの度が計れても、ものに對する運動、ものから來る運動が正確に分つても、それだけでは倫理的權威とはなりません。

人間はものを理解してしまうと、もう、其のものには支配されなくなり、其のものを支配するようになります。人間が理解した知識は人間の下僕です。西洋人は知識を御して其の結果速度に於て大きさに於て、又、金力に於て偉大な文明を建設しました。つまり、西洋人の文明は西洋人の下僕で、西洋人を支配するものではありません。ですから、もし、西洋人が利己主義ならば文明も利已主義的になります。

其處で、其の人間を納める力が無ければなりません、そして、其の力はあります、其の力が人間を御し統一します。其の統御力の大小によつて一國民の眞の進步の速度は計られます。

そして、其の力とは理想に向つて進む人々を統一し、道義心の泉源となる利己的でない不可解な熱狂主義です。これが人間を支配します。此の力が人間と、人間が創造した文明を支配します。其れが眞の文明です。そして、此の力、卽ち、熱狂主義が宗教です。



家庭・愛國主義・世界平和

原則として人は自分が勤めてゐる事務所や工場よりも自分の生れた家、又は、自分の造つた家庭に愛著を持つて居ます。と云ふのは自分の生れた家、又は、自分の造つた家庭には精神的及び詩的な關係に於て結び付けられてあるからです。

自分の生命を賭しても保護しよう、其の繁榮を計ろうとする家庭に對する愛著が延長して愛國主義の情操が出來ました。國家のために生命をも捧げようとする愛國主義

は實に家庭を愛する心から生れたものです。

此の愛國主義は、其の生れに於て、其の性質に於て、眞純なそして貴いものであり ますが、併し、現在に於ては其の意義が度々誤まられ、ゆがめられてゐます。現代の 所謂思想家と稱する人々の大部分は『愛國主義は純粹な利己主義を大きくし變裝させ たものだ。』とか、『俗惡な惡德、則ち、獨占本能を國民化したものだ』とか云つてゐま す。ハバート●スペンサーも亦これに似た考へで、『愛國主義は利己主義の反射、則ち 自我主義の延長だ』と云つて居ます。中には、又、『愛國主義は個人の心理的延長の發 達の止まりで、いはゞ自己中心と人類中心との間に位ひするもので、人間發達の過程 に於ける停車場のやうなものだ。』と云ふ人もあります。

けれども、彼等はものゝ結果から判斷することを忘れて、其の根本計りを見てゐる のでさう云ふ意見を持つようになつたのです。樹の本當の性質は其の果實によつてよ く分るので其の根だけでは、分らないと云ふ處に彼等は氣が付いて居ないのです。彼

等は如何なるもの丶性質も、其れは其處迄發達し、完成したものであると云ふことを忘れて居るのです。

私共人間は、過度的の姿を持つてゐるのです。ニーチエの云ふように、野蠻人から超人へ行く間の橋が私共であるのです。私共人間の始まりは卑しいものでありました。けれども、私共人間の力は無限に擴がつて行くものです。そして、其の擴がつて行く大きさは、私共の持つてゐる愛の大きさと、注意の度によつて定まるのです。現代の私共は元始人よりもより大きな愛、より深い考察力を持つてゐます。未來に於ては、其れがもつと大きく、もつと深くならなければならないのです。愛國主義も其れと同じことで、今日の狀態に迄除々と發達して來たものなのです。

一體、愛國主義には二つの根があります。其の一つは前に云つた自己の家に對する愛で、もう一つは一門に對する愛です。此處彼處と移住して歩いた種族の愛は自分の所謂一門に對してのみでありましたが、併し、一定の土地に落ち付いた種族は自分等

の先祖が遊つて居ることなどは問題にしなくなつて共同することが出來るようになりました。そして、自分等の家庭に對する愛は自分の屬する一門に對する愛よりもより精神的でより强いと云ふのは自然でありませう。家庭と云ふ言葉は此の人生を美しく、神聖なものとなし、嬉しい、又は、悲しい記憶に懐しい溫味がからみ付いて居ます。

こう云ふ處から生れ、そして、發達して來た愛國主義は前にも云つた通り、眞純で貴いものでありますが、併し、其れが地方的及び人種的愛に偏して行つた時に、それは醜惡なものとなります。たとへば、白人種が有色人種を排斥したり、又は、我が國の鎖國時代に外人を嫌つたように。或ひは、又、東京人が地方的愛に偏して、東京人以外の者を田舍者と稱して侮辱したり、東京以外の土地は住む價値がないと思つたりするように。

自分の國の國體や諸制度に心醉して居るしるしは外國を卑しめ外國人を嫌つて居る

ことです。我が日本國民は殊に此の關係に於ては惡い記錄を持つてゐます。こう云ふ風に、一地方人が他の地方人を嫌つたり、一人種が他の人種を排斥したりする傾向は、これは本當の意味の愛國心にまつはつて生れた、いはゞ附帶物です。ツイ此の頃迄、此の愛國主義は大部分他國に對する無智、無理解、其の無理解から起る侮蔑の氣分で養はれて來ました。

其の外に、愛國主義をゆがめたもう一つの原因があります。それは、今日の人が、いまだに持つてゐる動物的野蠻的な性質から來てゐます。此の點に關して現代の社會心理學者メクドユーガル博士は云つてゐます。「文明人だとは云つても其の殘忍性は野蠻人と少しも變らない。殊に、歐洲人は世界中の人間のうちで最も喧嘩好きである。」と。私共は、勿論、何事もない時にはお互ひに頭を叩き合ふようなことはしません。けれども、今日の文明其のものがお互ひの喉を切り合ふような競爭を其の基礎としてゐます。

私共の遊戯も亦大抵は戰爭に因み、競爭を骨子としてゐます。ですから、機會さへあれば戰爭は直ぐ始まります。今日迄の世界の人類は日々に戰爭の用意をして居たようなものです。常に用意をして居たのでありますから、不圖したことでも直ぐに戰爭は始まつたのです。けれども、此の戰爭は双方に損であると云ふことを此の頃人は痛切に感じて來ました。

此の競爭心は不合理なものであるには相違ありませんが、併し、全然有害無益と云ふことは出來ません。此の競爭心があつたゝめに適者生存となり、人間の進步發達に貢獻した處が少なくなかつたでせう。のみならず此の競爭心を戰鬪的の方面に用ゆることの代りに、人類の墮落を防ぐ方面に利用するならば、此れは有益であるに相違ありません。

偏した愛國主義に薪を供給して、其の力を一層强くしたものは所有慾と云ふ本能であります。勿論、此の所有慾と云ふものが無かつたならば、最も單純な文明も不可能

でありますから、これも競爭心と同じように使用の仕方によつては有益なものでありますが、併し此の本能も亦今日に於ては有益な方面よりも有害の方面へ用ひられて居る方が多いのですが、一體、此の所有慾、他の言葉をもつて云へば獲得性はどう云ふ時に養はれたかと申ますなら、元始時代に一家庭の父が野に山に海に衣食の料を漁つて妻の許に運んで來る。妻は其れを無駄にならないように使用し、又は、保存する工夫をする。此の時代に人間の獲得性は養はれたのであると云はれて居ます。ものを蓄積する本能が増大して、そして其れが私有財産制度となつたのでありますが、併し、これも凡ての外の本能と同じように増大するに從つてゆがんでしまいました。

本來の私有財産制度は眞純な愛國主義と同じく、正しい貴いものでありますが、愛國主義が其の延長して行く過程に於て偏して行つたと同じように、私有財産制度を造つた獲得性も其れが増大するに從つてゆがんで行き、そして、掠奪や強奪が私有財産制度であるかのやうな變態が現在の狀態となりました。

人の行爲の動機となるもの丶うちで、此の所有慾は隨分根深く强いもので、そして大抵の場合ひ滿足することを知らないものです。けれども、今現に一派の論者が主張して居るように私有財產制度を全然廢してしまうならば、正しい所有慾の厭迫となりそして、掠奪本能の跋扈を許す、掠奪本能に自由行動をとらせるようなことになりませう。

土地の所有權は人間の所有慾を滿足させるに充分なものでありました。なぜなら、それは有形であつてしかも破壞される憂ひのないものですから。ですから、個人の所有慾と云ふ本能が國體的のつまり國家的の本能に移るや否や、領土を擴げようとすることが國家の第一の仕事となりました。此の慾望が今日迄の戰爭の重もなる原因でありました。昔の國王は自分の支配して居る國を自分の私有財產と心得て、そして、其の財產を大きくすることを常に心がけて居ました。

資本主義は財產に對する觀念を必ずしも土地と結び付けないようにしました。又、

民主主義の勃興は、昔の國王が領土擴張の辯明に用ひてゐた戰爭論を否定しました。そして、此の二つが戰爭の大原因を押へ付けるに大ひに與つて力がありました。けれども、元始時代の野蠻的な獲得本能の力が文明人には弱くなつてゐると相像するのは本當でありません。なぜなら、大きな獲得慾に刺戟されて立ち、一國を所有するようになると、其の人は忽ち國家的英雄豪傑となりますが、併し、これは其の規模に大小の違ひこそあれ、矢張り、山賊が現れて他人の所有品を掠奪するのと同じ意味なのです。ですから、如何なる合理的な道德の標準に照してもフレドリック大王やナポレオン一世よりも大きな山賊はないと云ふことになります。

今でも、猶、フレドリック大王やナポレオンの名は一般人を感動させるに足るものでありますが、要するに、慾張り、戰鬪心、興奮、群集の雷同と云ふようなものが國家的英雄を造り上げる重もなる要素です。そして、今日に於ても、多くの社會運動の主領は昔風の着物を脫いで現代的の着物、則ち、社會經濟と云ふような着物こそ着て

居ますが、併し、其の實質に於ては、矢張り、フレドリック大王やナポレオンと五十歩百歩であるのです。議論こそいろ／＼巧みになつて居ても、併し、其の動機に於ては大差ない。レニンもトロツキーも現代的な着物を着たナポレオンであり、フレドリック大王であるのです。

嘗てスピノザは云ひました。「人の幸不幸は其の人の愛する目的物の性質によつて定まる」と。自分が愛しても居ないものに關しては爭ひは起りません。其のものが滅しても悲しみが起りません。他人が其れを所有しても嫉みは起りません。恐れも憎惡も心の動揺も起りません。恐れと云ひ、心の動揺と云ひ、皆、一時的のものを愛する處から起るものです。これに反して永久無限なものを愛するならば心は常に平和です。さう云ふものを愛し得るように人は常に心掛くべきだとスピノザは云つたのです。これは眞實な貴い言葉です。そして、これはスピノザ自身を常に導いて居た彼の心の表現です。

そして、此の永久なものの中には藝術、科學、又は、愛國主義と云ふやうなものも含んで居るのです。もし、私共が信、善、美に對して献身的な態度を持つて居るならば、其處から私共の生活を正しく導く光りは現れて來ます、けれども、私共がさう云ふ態度を持つようになるには、其の前に私共は自己を愛すと殆んど同じ程度に他人を愛す心が無くてはなりません。則ち、利他主義と云ふものが私共の心の大部分を占めて居なければならないのです。利他主義の本能が發達して、其れが愛國主義となり人類愛となつて社會に活躍した時に眞の平和は得られるのです。

けれども、多くの人は平和は外から來るものであるかのように考へてゐます。米國の前大統領ウイルソンですらも『世界の平和は民主的な國民の同盟によつての外は保たれない。君主國は決して信用出來ない』と云ひました。けれども、民主的な政府がつまり、共和國が王國よりもより道德的で、より平和的であると云ふ理論を歴史は證明しません。民主々義は政府の一形式であつて其れは合理的に説明出來るものであり

ますが、併し、合理的で說明出來るから必ず最善なものであると云ふことは出來ません。勿論、他の政府の形式よりもより善いと相像されてゐるのです。つまり、直覺よりも知力の方がより善いと云ふのです。けれども、知力と直覺とどちらの方がより道德的であるかと云ふことは容易に判斷出來るものではありません。

大分話が橫道へ這入つてしまいましたが、何事でも、其れが增大して行つたり、延長して行く途中に於て、ゆがめられ勝ちであつて、そして、人はゆがんだ姿を見て其の本質を忘れます。愛國主義にしろ、私有財產制度にしろ、資本主義にしろが根本の其の性質は決して有害なものではなく、人間の進步發達に無くてはならないものであつたのです。ですから、其の本質を見得ないで、一時的のゆがんだ姿を見て、遮二無二其れを破壞するならば人間の幸福と進步發達の道を根本から覆してしまうことになります。つまり、角を矯めようとして牛を殺すことになるのです。

今日迄、大抵の戰爭は愛國心の名によつて實行されてゐました。けれども、私共は

其名を善いとは思ひません。私共は弱い者いじめをいゝとは思ひませんし、又、自分等を超人であるかのように自分等に諂ふことも出來ません。私共が主張し、そして、實行しようとするものは平和な進歩と萬人の幸福です。そして、其れには誰に對しても惡意を持つことなく、良心の命に從つて正しき道に進み、日々の努力を怠らないことが必要です。さうした精神化し道德化した愛國主義が本當の愛國主義です。

私共の情緒が人間生活の全體に行き渡り、正しい關係を造り、そして、凡ての人が此の人生を生き甲斐あるものと思ふようになつた時に其の情緒は道德的なものです。自分を敎育した學校に結び付けられてあるような情緒を人が自分の國に結び付け得ることを私共は望むことが出來ます。如何なる行爲にも或る刺戟を要しますが、そして其の刺戟は一國の文化の精神にあります。

けれども、其の刺戟は何處から來るものでせうか？　私共を刺戟する最も貴いものは文學によつて代表されてゐます。そして、其の文學は家庭から發射されたものです

其れはいはゞ家庭の記錄に過ぎないものです。つまり、人が家庭と云ふ小さい社會から大きな社會へ出て活躍する、其の過程と活躍を記錄したものが文學です。

して見ると、愛國主義も亦家庭から來らねばならないものです。家庭を愛して國家を愛さない者はありません。國家を愛して人類を愛さない者はありません。そして、其の愛は母が子供に對して全然無條件で發射した利他の愛です。此の愛が世界に漲つた時に世界の平和は實現されるのです。家庭と愛國主義と世界の平和これが人道の三位一體であります。



青年子女指導者の資格

　青春時代は人生に於て最も幸福な時であると云ふ言葉は空虛な言葉であると云つてケイ女史は十五歳から二十五歳位の間の男女の苦惱に就いて語つて居ます。つまり、年長者が『青春時代は未來があるから樂しい』と云ふのに反して、青年男女自身はわけの分らない、何にも見定められない未來があるから一層苦しい。宗教に對する疑問生活の方針、戀愛問題などに就て、人間が眞面目であればある程、多く苦しまなければならない。眞面目に物事を考へる習慣を持たない青年男女、又は、其の習慣を持つた人でも或る機會に於て、凡ての問題や疑問を忘れた時を除いて、青春時代の苦惱は

壯年老年者が經驗するものよりも餘程深刻であると云ふのです。

青年男女の惱ましい其時代の問題は、同時に兩親の問題であることを私共は考へたいと思ひます。つまり、指導者としてどう云ふ態度をとつたものかと云ふ問題になるのです。

『或る學校で、指導者としての資格は何か？と云ふ問題が起つた時、一人の生徒が指導者としての最善な資格の一つは時機を見て指導する役を退くことだ』と云つて先生を驚かし、且つ喜ばしたと云ふ話がありますが、確かに其れも一つの眞理であると思ひます。家庭に於ても、學校に於ても、又は、政界學界に於ても、所謂指導者なる人が後進の者を信じないで、いつ迄も〳〵指導者としての位置から退かずに居るならば、自分自身の影で自分と云ふ一個の人間を暗くしてしまうと云ふことになります。

兩親にしても、我が子をしていつ迄もいつ迄も自分に頼らせて置くことは立派に子

供を育て上げたのではありません。子供が社會と云ふ靑空を正確に眺め、其の中を自由に正しく飛揚し得る强い翼を造つてやつて、そして放してやることが成功した養育であります。

養敎育の此の本義を了解して居ないならば、子供に相當な自信も出來て、そして、自分の良心に從つて、とつてゐる行動が、親には手前勝手な怪しからぬものに見えて果ては親子の間に思はぬ懸隔が出來て、親の悲しみ子の歎きを生むことになりませうイプセンの劇中の或る王樣が一人の靑年を我が子にしようとして其靑年に向つて申ます。『自分の意志を全然私の心の中に投げ込んで居るような人を私は私の傍に置きたい。何等逡巡することなく私を信じ、善いにつけ惡いにつけ、しつかりと私につかまつて居て、そして、私の生活に光と溫かさを與へるために生きてゐて、私が倒るれば一緒に死ぬと云ふような人を私は欲しいのだ』と、すると、靑年は『そんなら、あなたは犬をお飼ひになつたらいゝでせう』と答へて居ます。

實際、私共は自分達の子供が立派な一人前の人物になることを望んで居ながら、事實に於ては、子供が飼犬のように柔順であることを喜んで居ます。子供がいつ迄も自分に頼つて居ることを懐しんで、其の狀態を脫しようとしません。そして、これは進步の道に叶つて居ないから有害であります。

或る母が子息に向つて、『お前は以前のように私を愛して異れない。お前はいつも私の心に背くようなことをしてゐる』と愚痴を云つた時に其の子息は『私は以前と同じようにあなたを愛してゐます。唯、私はもう以前のような子供でないことは確です。だから、以前のように、あなたが正しいと仰有つても直ぐ其れを正しいと考へることが出來なくなつたのです』と答へました。

此の場合に就て考へても、此の靑年の母に對する愛は確に薄くなつたのではありません。けれども、彼の遵服する處が違つて來たのです。

たとへば、あの歐洲大戰爭に於ては、父子が一緒に戰つて居た場合が往々有つたと

云はれてゐます。此の場合に軍事に就て父は子に自分の意志に從へとは申ません。父は子に將校の命令に從へと云ふでせう。そして、其の將校は彼の上官の命令に從ふのですし、其の上官は、又、元帥の命に從ひ、元帥は、又、人道の敵を打つために人道が命ずる處に從ふのです。

つまり、一人前になつた子供は、彼自身の使命があるので其れに從はねばならないのです。其處で、親は其の時期を見計つて指導者としての役を退く、言ひかへれば子供の人格を信じて子供の自由に任せて置くことは、子供に捨てられるのでなく、親としての立派な義務を仕終せたと云ふことになるのです。子供のために最早自分が必要でなくなつたと云ふことは親としての失敗ではなく、却つて、成功であるのです。

進歩とは子が親よりも賢い有益な人間になることです。智力的に道德的に親と子の距離が隔たれば隔たる程、それだけ大きな進歩があつたのです。親の達することが出來なかつた地點に子が進むことが本當の進歩です。

けれども、子はいつ迄も〳〵自分に從ふものだとして、いつ迄も〳〵親としての愛撫の手を子の上に置かうとしてゐることは間違ひです。『女』の著者マグダレン・マルクス女史は子に對する愛に溺れて居る自分の母に向つて絶叫してゐます『私の内部生活が發達して、私の目がものをはつきり見るようになつた時、あなたはもう私のお母さんではありませんでした。あなたは私の小さいこと、私の涙、私の腕白を愛して下さいました。あなたは私をかばつて下さいました。お父さんが私をお叱りになると、あなたは雌獅子の挑戰的な目をして齒がみをして『お父さんが何と仰有つても私がお前の罪を許します。お前が間違つてゐてもお前は正しいのだ』と仰有て私をかばつて下さいました。けれども私はいつ迄もちびッ兒では居りません。腕白でも居りません私が自信を持つようになつて、善意を以つて或る行動をとらうとする時、いつでもあなたは反對なさいます。私は後れたあなたと歩調を合せるために私の進み得る足を止めて居るわけには行きませんから、あなたを後に殘して、あなたと離れて一人進んで

行かねばなりません』と。

ですから、先づ、普通には親が子に捨てられるのは常道で進歩の道に叶つたものでありますが、併し、親の態度によつては必ずしも成人した子供に捨てられなくてもすみます。自分も若い者と一緒に進んで行けばよいのです。唯、若い者と歩調を合せるのが大儀であるならば取り殘されるより外に仕方がありません。けれども、此の場合其れを悲觀すべきものでないことは前にも申しました。

けれども、もし、親が指導の手を引きこめた後にも、猶、親の精神が子の心のうちに働いて居るならば、其れは親の偉大さを語るものであります。或ひは、又指導者と云ふ位置を捨てゝ、親が子供の僚友となることが出來るならば、其れは全く理想的であります。親が再び若返へることの最善な機會でありますから。

世間には、又、自分をまるで全智全能なものであるかのように子供に敎へ込む親があります。其れは無邪氣だとも云へますし、又、馬鹿氣たことゝも云へますが、併し

それだけではなく、幾分か眞理を汚すものとなります。或る聖人の言葉に、『自分は光り其のものではない。けれども、此の世の中に光りのあることを證明するために送られた者である』と云ふ言葉があります。則ち、眞實、親切、愛情又は、忍耐を通じて醜いものゝうちにも美を認め、或ひは、自然の法則に柔順に服從することによつて此の世に光りのあることを證明しようとするのです。

指導者としての親が子に對する態度も矢張りさうありたいと思ひます。もし、親が自分は光り其の者であるとして子供に敎へ込んで置いても、いつか子供は必ず親の何かしらの缺點を見出すでせう。そして、其れが子供の世界の黒點となりませう。

けれども、又、親が子供に買ひかぶられて居て、却つて、其れが幸福になると云ふ場合もあります。たとへば、子が親の眞價値以上に親を崇拜して居るとします。それは、親子の愛情がさうさせるのです。そして、其の愛が人間の歩む道を明らかにするので、いつの間にか親は子供が間違へて居た通りの立派な人に向上したと云ふ例もあ

ります。つまり、其れは愛の魔力とでも云ふものであります。

私共の生活を常に高きへ〳〵と導く力が何處かに存在すると云ふことが此の人生の特長であります。たとへて申しますなら、嬰兒に吞ませる牛乳を完全に調合するならば嬰兒はだん〳〵強くなつて、やがては、固形物を攝取するようになります。其れと同じことで、子供等に賢い忠告を與へて正當に導いて行くならば、遂には、忠告を與へなくても暗示をすら與へなくても、子供は人生の正しい軌道を外れるようなことは無いでせう。

其れは隨分難しい仕事ではありますが、併し、理想を其處に置いて、進歩の道に一歩でも半歩でも近づくように心掛けて私共は子供を善導して行きたいものだと念じて居ます。

共産主義と婦人

餘程以前のことでありますが、私は一度書いたことがあります。

「露國に於ける婦人國有の宣言が外國電報に頻々として見へた。次いで小兒國有と、國有にされ兩親から離された小兒の悲慘な生活と、小兒の母達の狂亂自殺などが報道された。私は婦人國有の電報を始めて見た時に其れは虚報であろうと思つてゐた。信じることの出來ない程恐しい報道であるから。けれども、其の後、過激派政府の機關新聞が正式に發表した法令のうちに

一、十八歳に達した女子は國有である。

二、十九歳から五十歳迄の男子は其の國有女子のうちから本人の承諾の有無に拘らず

國家の利益のため選んで妻とする權利がある。

三、其の結婚から生れた小兒は國有である。

と發表してあるのを見て、いやでも應でも其れを事實と思はなければならなくなつた

そして、露國のレニーズムは到底生命のないものであることを信ずる。なぜなら、如何なる文明でも男女間の愛と親子間の愛の上に建設された家庭を基礎とした國家でなければ進步發達するものでない。根を切られた樹は必ず枯れる。レニンの國家は夫婦の愛を無視し、子供を兩親の懷から家庭から無理に引き離すことによつて國家の根を切り離すものである。』と。

すると、レニンを崇拜し、現代露國の政策を標本的なものだとして讃美して居る一派の論者は、私の上述の言を冷笑して、『婦人國有の電報は虛報である。其れは露國とレニンに反感を持つてゐる資本家階級が露國に泥を塗るための宣傳である。決してレニン政府の考へたことでもない虛報を眞に受けて、眞顏で云々する人は隨分御目出度

い。』と云ふような調子で、そして、婦人國有の電報を全然否定しました。

私は、自分が冷笑されても侮辱されても、もし、婦人と小兒の國有と云ふことが事實でないならば、其れは露國の婦人や小兒のために喜ぶべきことだ、自分が笑はれたことなどはどうでもよいことだと思つて居ました。

處が、遺憾ながら、矢張り、其の電報が全然虛報ではなかつたと云ふことが又分つて來ました。

と云ふのは、一體、ボルシエヴイストの革命は、多くの點に於て（『婦人と新社會』二十四號に書いて置きましたが）既成の文明破壞を目的とする秘密結社の創立者なるワイズハウプトの規定に從つたものです。そして、其の規定と云ふのは、政府、私有財產、遺產、愛國主義、宗敎、結婚、及び、家庭を全然廢止することでありました。

此のうちで、宗敎と結婚を廢すことに付ては流石のレニンも大部苦心したらしいのです。そして、公式には結婚を廢しはしない、婦人を國有にはしなかつたのですが、

併し、さうする目論見(もくろみ)があつたのです。そして、其の目論見があつたと云ふことはレニンの友人コロンタイ夫人の『共產主義と家庭』と云ふ本のうちに明瞭になつてゐます。」つまり、『舊式な結婚法を廢止して、男女は自由に結合したり、離れたりすべきである。」と宣言してあるのです。これは自由戀愛の實行、云ひ直せば、『婦人の共有』と云ふことになるのです。

『婦人の共有』則ち『婦人の國有』に關してはレニン政府の幹部内に多くの議論が起りました。と云ふのは、これは西歐には發表するつもりでなかつたのを幹部の一人エカテルノーダルが發表してしまつたのです。それで『婦人の國有』と云ふことをエカテルノーダル一人の行爲として置くか、それとも、ボルシユヴイツクのプログラムの一部にして置かうかとするに付てゝありました。彼等は西歐からは反對されても、露國々民には容易に承諾されると思ひの外大反對が國民間にあつたからです。そして、到底其の反對に打ち勝つことが出來ないのを見てとつたレニン政府は其の責任をエカ

テルノードルに負はせてしまいました。

ボルシエヴイズムがマルキシズムであると云ふことは云ふ迄もありません。従つて凡ての點に於て、マルクスの敎へに從ふことが各指導者の最高の目的です。そしてマルクスの共產黨の宣言のうちにも『婦人の共有』と云ふことが書いてあります。ですから、今、『婦人の共有』と云ふことが露國に實現しないのは、其れに反對する國民の輿論が餘まりに强かつたゝめに、一時中止した迄です、コロンタイ婦人の著書が其の終局の目的を明示してゐます。そして、此の自由戀愛の實行は、名は婦人の自由とでも何とでも都合のよいものが附せられますが、事實に於て、婦人から凡ての保護を取り去るのですから、男子に婦人を飜弄させる多くの機會を與へることになるのです。マルクス、及び、ボルシエヴイストは賣淫を廢止するための自由戀愛、婦人の共有と云ひますが、併し、それは任意の賣淫の代りに、壓制的な賣淫と云ふことになりはしないでせうか?

さう云ふ事情であつたのですから、『婦人の國有』は法律とならなかつた迄で、國民間の大反對のために貫徹することが出來なかつた迄で、レニン政府の意向であつたことは確かです。して見ると『婦人國有』の電報が全然虚報であつたと云ふことは出來ないことになります。

此の點に關してはボルシエヴィックスは革命狂バブユーフ以上です。バブユーフは兩親の懐から子供を引き離すことによつて、家庭の破壞を主張しましたけれども、婦人の國有と云ふことには論及しませんでした。バブユーフの主張は『子供は子供の父が大きな働のために有名になつたのでなければ父の名を受けつぐことを許さない』と云ふので、これは確に現在の結婚制度を破壞するものです。そして、ボルシエヴィックスは子供の敎育に關しては此の革命狂バブユーフに倣つてゐます。

コロンタイ夫人が西歐洲の母達を驚かせないために、むしろ、曖昧に云ひ現してゐる思想を、本國の露國に於て實行しつゝあるのを、英國の共產論者ベルトランド・ラ

ッセルは見たまゝに話してゐます。『子供は全然國家に渡されてしまうことが必要とされてゐる。母達が子供に逢ひに行くと云ふけれども、其れは名計りである、なぜなら子供は處々方々へ轉々として移されるので母達は自分の子供に逢ふことは出來ない。のみならず、官憲の全體の調子は母と子供との關係を絶つようにくしむけてゐる』と。

此處に於て私はボルシエビックスが信奉してゐるマルクス主義を生んだマルクスの私生活に付て考へさせられます。マルクスには娘が三人ありました。一番上はジエニーと云つて佛蘭西の社會黨ロンゲと同棲して居ました。二番目はローラと云つてラフアルグと同棲して居ました。三番目の娘はエレノーアと云つて社會黨のうちで其の名の錚々たるアベリング博士と同棲して居ました。

處が、一番上のジエニーもエレノーアもエレノーアの夫アベリングも皆自殺してしまつたと云ふのはどう云ふわけであつたでせう? マルクスは非常な子煩惱でジエニ

ーが自殺したのを失望して其れから間もなく死んでしまひました。で、父、又は、舅の主義主張を信奉して、それを實行して居た彼等の實際生活に無理はなかつたか？つまり、理窟に於て正當と思つても、人間性に反する情に於て忍び難いものがあつたのではないか？と云ふ憶測を押へようとしても押へることが出來ないのであります。

白蓮女史の剃髪を聞きて

草間判二

濁り江は遂に住ふべき家ならず染むをいとへる白き蓮の

仇し子を儲ける尼よ戀を捨てて習ふみ經は涙にぬるらむ

白蓮は淋しき花よ力ある血汐の色をいづこにも見ず

知的婦人の職業



最大なる自由と幸福を創造する可能力を持つて居ることは婦人も男子も同じであります。けれども、それは性の差を無視するとか、又は性の差を最小限度に擦り消すことによつてではなく、兩性の差を認め、其の差を發揮することによつて自由と幸福は創造されるのです。

もし、私共が兩性の差を無視して、婦人が男性化したり、男子が女性化したりするならば、それだけ此の人生の價値と幸福は少なくなります。男女は性質上同じではありません、男は女の補足であり、女は男の補足であります。單位は女でも男でもない、つまり、男女が合して一つの單位となるのです。

ですから、私共の進歩發達に必要なる活動に於てはどう云ふ仕事が女に適し、どう云ふ仕事が男に適し、そして、其れがどうして、最善に為されるかを研究して今日迄の婦人運動に修正を加へて行かなければならないと云ふのが私の信仰です。

今日に於て猶職業上男女同等說を稱へる人は男女關係の問題を深く考へて居ない人か、さもなければ淺薄な意見の雷同者であるのです。こう云ふ見地から、私共婦は人間生活の內部の建設に。男子は外部の建設に云ひかへれば、男子は現在のために働き 婦人は未來のために働く、これを有り來りの言葉で云ふならば、男子は現在を維持するために屋外で働き、婦人は未來を創造するために家庭で働くと云ふことになるのです。

けれども、これは理想であつて、現在の社會狀態は多くの婦人を家庭外に追ふて所謂經濟上の仕事に從事させてゐます。着々と男子の仕事に侵入しつゝあります。とは云つても、今日の處では、まだ、さうした婦人の數も比較的少なく、職業上の技術も男子に比較して未熟であるので男女の職業上の競爭は餘まり烈しくはありませんが、併し、今日の此の傾向を押し進めて行くならば、其れは烈しくなつて來ます。そして、それが非常な惡結果を現出することは極まつてゐます。ですから、事情止むを得ない婦人を除く外は、現在の賃銀と云ふ有形な價格に現れたものに一時の滿足を買つて無形なそして未來の害に付て忘れるようなことがあつてはならないのです。現代の私共が殊に注意しなければならないことは使用價値と交換價値の區別を知ることです。

　以前、米國では簿記係、速記者、タイピスト、事務員など殆んど全部男子でありました。そして、一家族を支へて行くだけの賃銀をとつてゐました。けれども婦人の職業が盛んになつて、其の方面へ進入つて行くようになると、今迄百弗で男子を雇ふて居た處では二十五弗か三十弗で婦人が雇へるので皆男子を解雇してしまいました。そして、今日の處では、それ等の職業は殆んど全部婦人の職のようになつてゐます。

　其の結果、職業婦人達は自分一人の生活費にも足りない月給を取つて意氣揚々として居るに反して一方、婦人に職業を奪れた男子達は全く新しい方面に職業を探さなければならなくなりました。そして、大概は牛乳又は其の外の配達夫になり、それ迄は百弗内外の月給をとつて居たのが僅か三十弗内外で働かなければならないようになりました。其の結果、其の人達の家庭がどんなに悲慘なものであつたかは想像に餘まりあります。

　婦人が職業界に進入つて行く最初の動機は決して不道德なものではないのですが、一方には前述のような狀態を現出し、又、一方には好ましからぬ風儀上の問題が起つて來ます。つまり、容貌の美しい若い婦人は仕事に熟練して居なくとも高給で雇はれ、年をとつた又は美貌でない婦人は、たとへ技術の熟練をもつてゐ

ても月給は安く、のみならず、年々技術が進歩して行くにも拘らず一ッ年をとれば取つたゝけづゝ失業の危険が迫まると云ふのが現在の狀態です。

ですから、婦人の職業が盛んになる結果は、技術が未熟でも若くて容貌が美しければ高級、技術が熟してゐても容貌が美しくなく其の上に年が進んで居れば低給で、そして常に失業の恐れがあり、一方には又今迄無事に一家を支へて居た男子が自分一人だけの衣食の料にも困ると云ふような狀態を現出したので あります。

其處で、此の過度期に於ける今日の社會の狀態上、婦人が經濟的の仕事に從事しなければならないとすれば、先づ、他に有害な影響を及ぼさない、そして、女性の特色を發揮し得る職業を選むのが最も賢い行き方です。合衆國では小學校敎員の全部、中學程度の學校の敎員の半分が婦人であつて、そして、婦人の大學の敎授も續々と殖へて行きますが、此の敎職は婦人に最も適して居ます。其の外、看護婦とか、社會奉仕者などは進歩した家庭婦人の仕事の延長であつて、婦人の職業としては最善なものだと思ひます。或ひは、又家庭に居て出來る知力的な仕事などは最も理想的なものでありませう。

亞米利加の婦人で新刊批評を職業として居る人がありますが、これなども非常に有益な仕事であります。我が日本で今日最も缺乏して居るものは眞面目な確實な新刊批評でありますから、もし、知力ある婦人が此の方面に手を伸すならば、悪い出版物の制裁となり、青年男女に讀書の目標を示し敎育の補助となり、社會に貢獻する處が莫大であらうと思ひます。家庭を整理する傍、讀書しながら出來るこう云ふ仕事は本當に理想的であります。けれども、如何なる仕事に從事するにも最も必要なものは其の仕事に對する資格であつてそして、其の資格は學校敎育許りでは出來るものではなく、或る程度迄の自身の苦心が必要です。

で、今、婦人の職業の一つとして新刊批評を選み出しましたに付いて、今現にボストンヘラルド紙の新刊批評欄を擔任して居られるヘレンデニス孃の經歷を極く簡單にお話して見ますなら、孃は、小學校を卒へて

から二年間中學程度の學校へ通ひ、そして、十八歳の時或る出版屋の事務所のタイピストになつて餘暇は全部讀書に費して居ました。英語の外は語學の智識がなかつたのですが、英譯書で獨佛及び露西亞の作品などを讀んで居るうちに三年が過ぎました。やがて、タイピストから批評係りとなり、廣告文の書き手となり、其の次には原稿の調査係となつて、前後全部で十年が經過しました。で、いはゞ、其れが彼女の大學であつたのです。恐らく、大學校の過程を踏むよりも却つて彼女の實力の養成にはより有効であつたろうと彼女自身でも云つて居ます。

尤も、其の間にデニス嬢は折り〱新聞紙に執筆して居ましたが新聞紙のために筆を執ることは單純に讀書に書くことを養成するためなのです。要するに、新刊批評家は或る程度の修養を經た新聞記者なのです。そして、批評家から著者になるには一足飛びなのです。

一つの職業となると何事でも利益と不利益が伴ふものですが、此の新刊批評と云ふ仕事の利益な點は男でも女でも同じように出來ると云ふことであつて、そして不利益な點は仕事が不規則と云ふことでありますが併し、それが却つて家庭婦人などが暇々を見てするには都合がよいと云はれて居ます。

我が國では今一般が學校萬能の迷信にかゝつてゐるように私には思はれますが、本當の實力、有益な職業に對する資格は學校で造られるのでなく本人の苦心であると私は思つてゐます。苦心の結果、或る資格を自分で造り得るような婦人ならば、家庭を持つても家事の合間々々に社會的にも有益な仕事をいくらかづゝは遂行し得ると思ひます。

屋外勞働は家庭婦人のためには全然不利益でありますが、家事の餘暇に出來る知力的な仕事は家庭を持つてゐても可能であり、又本人のためにも社會のためにも有益です。新刊批評などと云ふ、此の方面に働き手の少ない今日殊に婦人が手を付けることは大いに有意義であろうと私は考へます。



貧乏の心理

金持ちになれば不足はなくなると云ふ考へを人は理窟では打ち消しながら、矢張り、さう思つてゐるものです。そして、金を持てば持つ程、餘計に欲しがります。それが人の本性ですから。其の上に、金が出來れば出來る程、貧乏な時代なら滿足して居られたものが不滿足になります。一方には、又、商人が出來るだけ人の慾望をそゝる工夫を凝します。物質に對する慾望計りでなく、金で買ふ精神上の滿足もだん／＼贅澤になり、仕拂はればならぬ金額も多くなつて行きます。

ですから、唯、單により多くの金を持つたゞけでは不滿足と云ふ病から逃れることは出來ません。貧は、貧乏と云ふことは心理上の狀態で、これには貧富の區別はないのです。唯、富者は貧者よりも慾望の度が强いだけです。貧乏と云ふことを一言で云ふならば、自分には買へないが人には買へるものを見せつけられることです。

其處で、其の慾望は整理する必要があります。つまり慾望を制限する訓練が必要と云ふことになります。到底自分の手の屆かないものに對して慾望が起るならば、其の慾望を抑へ付けてしまう習慣が必要です。貧乏は心理的のものでありますから、其れを救治する方法も亦心理的でなければならないのです。

僧侶は物質慾に勝つために浮世を捨てます、つまり肉慾の一切を斷つのです。併し、これを一般人に求め

るのは無理です。慾望を全然押へつけると云ふことは自分自身を削ることで、いはゞ一部分的自殺でありますから。人は自分の手の屆かない處迄も手を伸そう〳〵として生きてゐるものです。蝸牛のやうに殼の中へひつこんで居ると云ふのは人間の性質に反してゐます。のみならず今の人間は立派な自分の家があつても家を外にしよう〳〵とする傾向を持つてゐます。慾望は、それが生命でありますから差し支へないですが、併し、それが無制限である時に有害になります。實に貧乏は金さへあれば救へると云ふわけのものではないのです。

其處で、私共は商人の手を經ないでも勝手に享有し得るものゝ價値を知り樂しむことを覺へなければならないのです。つまり、製造品から天然物へ心を轉ずることを學ばればならないと云ふことになるのです。到底、自分のふところが許さないものを見ようとして心をいらだゝせるよりも、蜘蛛の巣の巧みな工夫を見て樂しむことが出來るなら、非常に經濟です。

もし、私共の心がさう云ふ傾向になるならば、自分の手には入り難いものにあこがれて、さもしい了見になつたり、嫉妬心を起したり、ツイにはヒステリックになつたりすることがなくなります。さう云つたからとて貧乏人は何でもかでも自然を樂しんで居て、加工品は特權階級に與へてしまうように云ふのではありません。天然物の價値を知ることは幸福に生活する一大要素であることを云ひたいのです。

自然を樂しむ習慣を持つてゐる人は無暗みにものを欲しがらない、つまり、寡慾で、そして幸福であることは誰でも知つてゐます。そして、これは心の持ち方を變へさへすれば誰にでも可能な方法です。けれども一般人は、自然美よりも不完全な人工美を、自然の美味よりも不自然な人工味を、自然の空氣よりも腐敗した都會の空氣の中で生活しようとします。そして、これが產業と云ふ大きな不幸の源を造つてしまいました。

常に幸福に生活しようとすれば、慾望を整理する必要のあることを申述べて參りましたが、もう一つ必要なことは公の仕事です。つまり、普通の人には買ひき

れない、けれども普通一般の人が望んで居るものを市が供給して市民を享樂せしむるやうにするのです。ですから、模範的な都市と云ふのは、以前には個人が莫大な金を投じて一人で享有して居たものを、市有として一般市民に提供する都市を云ふのです。つまり、金があれば誰でも必ず求むるものを市が買つて市民を樂しませる工夫をするのです。たとへば、書物、藝術、音樂、公園と云ふやうなものです。

此處に、市民の遊步地として、非常に都合のよい一平面地があるとします。けれども、もし、それが個人の所有物であるならば、彼は都合によつては家を建てるかも知れないし、又は、他人に賣つて、そして、買つた人は工場を建てるかも知れませんが、もし、其れが市有であつたならば、市民の利益は永久でありませう。

ですから、今後の政府は一般國民の利益となるものを公有にして、一個人の都合や慾のために其のものを左右されないやうに工夫する必要があります。そして又、一方には國民各自が心を痛めて居る心配を國民の心から除却してやる必要があります。各個人の心を痛める問題とは、たとへば、病氣になつたらどうしよう失業したらどうしよう、老年になつたらどうしようと云ふやうなことです。

で、もし、さう云ふ場合ひに立ち至つた時に對する設備が政府にあるならば、國民は私有財產權などに重きを置かないやうになりませう。

國民各自が自分の慾望を整理することを學び、そして、政府が國民の未來に對する心配を除去する設備をするならば、其の時に私共の生活は本當に幸福です。

個人の所有にかゝる一枚の名畫は唯其の個人一人が樂しむだけでありますが。其れを公有にするならば、數千數萬の人の樂しむ處となります。一個人が所有する書物は一人にだけしか讀まれませんが、もし其れが圖書館にあるならば數百數千の人に讀まれます。

實に、有益な眞面目なものに接する機會がないこと未來の生活が不安であること、到底、自分の手が屆かないものを慾望する心、これ等が私共の生活をみじめにして居るのです。

とは云へ、此の頃は生活の標準がだん〲高まつて來てゐます。國民は慾望の手がだん〲伸し得て來ました。けれども、伸ばす其の方向は餘まり香しいものではありません。彼等は長い間慾望して居ても手に入れることが出來なかつたものを手に入れるようになりました。彼等は收入を比較的平等にするようになりました。各都市も亦市民の利益を日に月に増加しつゝあります。ですから、此處でもう一歩進んで各自が天然物を享樂することを學び、市が市民の必要品の供給を保證し、各市民が財を蓄積する競爭の代りに社會奉仕を競爭するようになるならば、此の社會は地獄から一足飛ひに樂園となるでありませう。

新刊紹介

○近視の豫防
內務省衞生局刊行

近視眼は年々非常な勢を以て增加して居ます。本書は其の豫防上の注意等がくわしく書いてあります。御希望の方は實費四錢で申込めば何時でも御送りするさうです。

◎白蓮紅蓮（前編）
菊池幽芳著
大坂毎日新聞社發行

本書は菊池幽芳氏の力作で發行以來重版すること數度に及びなか〲の好評であります。後編も近日發行するさうです。前編三一六頁定價一圓五十錢大坂東區大川町五五番屋敷

○答禮使御來朝記念寫眞帖（上卷）

佛國元帥ジヨツフル將軍の來朝より歸國までの行動を寫眞にとつたものです。定價一圓二十錢

○皇室畫報

本帖は我が皇室及宮家の御寫眞百餘枚を集めたものです。定價二圓郵稅十八錢

右二種共大阪毎日新聞社發行

友人の死より

原田琴子

母から送つてよこした郷里の新聞を私は何氣なく開いてみた、多分また私達の事について小話めいた、面白半分のやうな記事でも出てゐるのでそれで母が特に送つてくれたのだらうと思ひながら。そして私の眼はすぐ三面の、赤く朱點をつけたところへとおちて行つた。だがそこには何といふ思ひもよらない報道が書かれてあつたことだらう！　猫婢自殺といふみだし、何郡何村の何の誰といふ名――その名を一讀すると共に私は覺えずぞつとした。それは私の小學校時代の只一人の親友であつたTさんの名であつたから。『まああの人が！』と私は我しらず聲に出して云つた。大きな悸きに私の胸は潰れるうな氣がした。息もつけなかつた。世の中にはほんとうに思ひがけない事が起るものだ。私は歎息の下からかう思つた。そしてまた新聞をとりあげてつく〴〵とそのみじかひ記事にみ入るのであつた。記事はきわめて短かかつた、菜郡菜村――Tは正月頃より精神に異狀を呈し居りしが遂に厭世の氣を起し猫イラズを多量に服して死せりといふにとゞまつてゐた、それ以上の説明はなかつ

た。

さういへば今年は年賀狀の返事が來なかつた！　とも私は思ひ出した。何がTさんをして悲慘な死にまで到らしめたのであらう？　あの快活で氣立てのいゝ、やさしくさつぱりしたTさんを。私には想像がつかなかつた。良人に死別れた佗しい孤獨の生活につひに堪へきれなかつたでもあらうか。

『今ぢや却て呑氣なものですよ、この子の育つのを樂しみにしてれ、誰に氣兼ねはなし——今に年をとつたら一緒に方々遊び歩きませうよ』

かう云つて笑つたTさんの顏を私はよく覺えてゐる、五つ位ひかと思はれる男の兒の手を引いてTさんは殆ど一足ごとに『ひろしや、ひろしはいゝ子だからね……』といひつゞけてゐた。私の町から小一里ほどある海邊の村へ歸るTさんを送つて私は一緒に田圃みちを歩いてゐたのだつた。Tさんの緣付いたのは何でも親類うちとかで、良人に當る人は小學校の先生を勤めて、大變評判のいゝ人だつた、結婚後Tさんは幸福さうだつた。意地の惡い運命がやつて來てそのいゝ良人をTさんから奪つてさへしまはなかつたなら……今もTさんは幸福に平和にあの海の見える家に暮して居たたらうに、ほんとうに世の中の事は分らない——私はたゞ讃歎か嘆息をくり返すばかりだつた、そしてTさんの死因が果して何であつたらうか、それについてもつとくわしいたよりを知りたいといふ思ひが一杯になる

のだつた。

郷里の母が上京した時に一渡りの話がすむとすぐ私はTさんの事を訊いた。母は云つた。

「なんでも姑になる人が意地が悪いとかつていふ噂だよ、Tさんの死骸をつれて行つたらいろんな事口をきいて打つたり蹴つたりしたつていふ話だもの、Tさんはね子供をつれて實家へ來てゐて死んだのさ、おまんじうの中へ猫イラズを入れてね、子供にも食べさせようとしたんだけれど、子供は食べなかつたんだつて、子供の時はお前とあんなに親しくして居た人だつたのに、ほんとに人間つて分らないものだね」

「ほんとうにどうして死ぬ氣になぞなつたものでせうね」

私は幾々左樣くり返した、母もTさんの氣性はよく知つてゐた、さつぱりした、おとなしい、いゝ人――そのTさんをとかく神經質で我儘で理窟つぽくて、決斷力のない私に較べてはよく母は愚痴とも小言ともつかない言葉を云つたものだつた。私の我儘にはずいぶん手こずつて居たらしい母は、Tさんの死を何と感じたことだらう、我儘でも何でも生きて居てくれた方がいゝと思つたことだらうかそれとも、あんまりあゝいふいゝ人だつたからTさんは死んだのだとでも思つたことだらうか、――私は母の心持をいろ〳〵に推しはかりながらしばらく默つて母と同じ樣に哀愁の中に沈んでゐた。T

さんの家の細かい事情は勿論母にも分りようはないのだつた、姑が辛かつた、それが原因であらうとは、けれども私には思へなかつた。それはほんの皮相の觀察にすぎまい、また原因のほんの片はしではあつたかもしれないけれど決してすべてではあるまい、もつと深い根強い何かゞあつたのだ、Tさんの死別れた良人に對する愛慕――私はそれを考へた。

良人に死別れてからの數年間Tさんはどのやうに深い悲哀と、惱みと、寂寞とに鬪はればならなかつたであらう、あらゆる事柄に對する無興味、そして最後には怖ろしい絶望、その絶望の中から如何にかして、生きようとして、生命を獲ようとして、どんなにTさんはあがき、苦しんだことであらう、そして最後に得たものは、懷しい良人の幻――自分を愛し、信じ、頼つた唯一人の良人のやさしく笑むでさしまねくその佛ではなかつたらうか。Tさんは最愛の子供をも自分と一緒に死の路へ伴ふ氣であつたらしい、あれほど大切にして可愛がつてゐたらしい子供を！　だが母としての經驗のある私には、そのTさんの心理には、全く同感することが出來る。殊に死を思ひ極めたTさんの心の前に浮ぶものが、暗い恐ろしい暗黑の死の世界ではなくて、懷しい良人やその他善良な人々の群れてゐる美しい國土であつた場合に、なんでたゞ一人の愛兒をあとに、この世に殘して置かうと思ふだらう！

私はTさんが現在の生活よりももつといゝ、生活に進まうとして死を選び、それに愛兒をも伴つて行か

うとしたのだと考へたい、さう考へずには、あの薬を飲んだ者の恐ろしい最後の苦悶を、思ふのに堪へ得ない。

然し左様考へはしても私は、深い杞憂の中へ心の沈んで行くことを、意識せずには居られなかつた。私は四五日ぼんやりとTさんの死んだ事ばかりをとりとめもなく考へて過した、みず〱しく若芽の萌え出した庭の楓や枇杷の木や、早くも小さな蕾をつけた山吹の叢なぞを眺めながら、さうしてめつきりとぬるんで来た三月も末の方の風に吹かれながら、私の心は哀愁に沈むだ。Tさんを憶ふ私の心はやがて自分自身を思ふ心に移つて行つた。もしも私の良人がTさんの良人のやうに――と思ふと私は冷水を浴びたやうにおのゝかずには居られなかつた。

「生きて居るうちに死ぬことを考へる必要はない、なぜよりよく生きることを考へずに死ぬことばかり考へるのだ」

と私の良人は云ふ、でも今の場合考へずに居られることだらうか、良人に対する愛着が、どのやうに深ひかを知れば知る程、私は良人から離れた自分の生活を想像するに堪へない、私にとつては人生は砂漠と寂しくなるであらう――

「どんなに愛する者とでもいつか引離されればならぬのだ」

それは今更に知つたことでもなかつた、然し知るといふことゝ感じるといふことゝの間にはどんなに大きな差があることであらうか。

私は、私が少女時代に居たある佛教の學校で聞いた「會者定離」とか「離合集散」とかいふ言葉を思ひ出した、そして極めて漠然と「宗教の必要」といふやうなことを考へた。けれども私の心には何の新らしい光も注がれては來なかつた、宗教といふものにいさゝかも觸れ得ないやうな醒めきつた心が悲しまれた。現在の、眼前の生活に執する心――そこから私のすべての悩ましさは生れるのだと思ひつゝも如何とも致し方がないのだつた。

寄贈新刊

婦人世界	四月號
愛國婦人	同
婦人くらぶ	同
婦人	同
婦人畫報	同
近代生活	同
實生活	同
文化運動	同
住宅研究	同
新組織	同
女性同盟	同
女性日本人	同
婦人公論	同
正教時報	同
廿埍	同
丁酉倫理	同
世界の批評	同
家庭雜誌	同
趣味の婦人	同
關西婦人新聞	同
婦女新聞	毎週
越後メマムス	同

教育社會學講話（第十四回）

社會心の研究

社會心とは、多くの個人の心が交互作用を起して、同じ感情を持ち、一致した判斷を爲し、そして、共同的行動に出ることが出來る、つまり、多くの個人の心が相互の心の上に活躍し合ふ現象を云ふのであると、ギデングス敎授は申ます。

此の定義は、小規模に於ける同趣味の者の集團の說明を凡ての種類及び凡ての大きさの社會に應用したものです。つまり、一ツの集團又は一ツの社會が出來るには、其の集團又は社會を造る人々の間に何にかの類似が、たとへば、趣味を同じうするとか見解を同じうするとか云ふことが無ければならないのです。で、これは大きい社會に於ても小さい社會に於ても同じことですが、併し、社會の大小によつて唯一つ異る點は、大社會に於ては小社會に於てよりも其の社會員を結束する力がズツと緩いと云ふ

ことです。つまり、大社會の社會員の共通利益は僅かであり遠いものであるに反して小社會の社會員の共通利益はいくつもあつて、そして、其れがより直接であるからです。

又、社會員の精神生活を涵養する交通の種類にもそれ〴〵に違ひがあります。同趣味の者の小さい集團に於ては此の交通が直接であるに反して、集團が大きくなればなる程其の交通は間接になります。社會員の數が多く、又は廣い面積の上に離散して居る場合ひには其の社會員間の相互作用は必然間接なる交通によりて行はれるようになります。が、とにかく、同趣味の者の集團、及び交通が如何なる社會に於ても重要なる要素であり、常に活躍してゐるものです。

一體、社會心と云ふ言葉は比喩的な言葉であつて、個人の心を離れた社會心と云ふもの、つまり、社會腦髓と云ふものがあるのではないと云ふことは勿論です。社會學に於ては一般に此の社會心と云ふ言葉が用ひられてあるのですが、併し、實際にはさ

う云ふものはないのです。唯、交通の力によつて、或る數の人の心が一部分一致したと云ふに過ぎないのです。もツと正確に此の社會心と云ふことを云はうとするならば社會感化力と云ふ方が適當であるかもしれません。けれども、社會心と云ふ言葉を使ふ利益は、其れら人々の注意を引き、人々をして考へさせる處にあるのです。

社會組織に於ける社會心の作用は後に話しますが、此處で注意して置かなければならないことは、或る一ツの人口が一ツの社會を組織する前には、どうしても、社會心と云ふものを發達させなければならないと云ふことです。で、此の社會心を發達させるに付て、歷史を有効に利用するためには必ずしも其の歷史が正確でなければならぬと云ふことはないとメーシー博士は云つてゐます。つまり、羅馬帝國を建設するに至つた物語は、後に作り話であることが明らかになつたのだが、それでも一人口を結束させて一國民を組織させる有益な目的を達して居ると云ふのです。

社會心、即ち、社會感化力を說明してボダルガス博士は云つてゐます。『凡ての人の

行爲は、目の前に他人が居る居ないによつて、又は、其處に居る人の意見によつて變更させられる。殊に、友人の判斷によつてはひどく變更させられる。教會の事業などに少しも興味を持つて居ない青年でも、もし、其の事業に熱心な若い婦人が傍に居る時に、寄附金を要求されるならば、大いに奮發して寄附をする。』と。

又、ヘイス博士は申ます。『人の功名心は社會的に決定されるものである。一人の子供の遊びの方法はいつも周圍の子供によつて定められる。どんなに好む遊びも周圍の子供等が止めてしまうならば矢張り止めてしまう。……我々人間が良心を持つ資格を自然は我々に附與するが、併し、良心其のものを我々に附與しはしない。丁度、言語を覺へる資格を附與するが言語其のものを附與しないと同じように。そして、良心や言語を附與するものは社會進化と教育である。』と。

社會心の起原

前に云つた、多くの個人の心の一致はどうして出來るものでせうか？　或る種類の

一致は殆んど說明を要さない程明らかな原因から來て居ます。つまり、私共に食物が無くてならないものであることは誰でも知つてゐます。そして、米を主食物にして居る人種は米に對する切實な要求を共通に持つてゐます。肉を主食物にしてゐる人種は肉に對する切實な要求を共通に持つてゐます。私共人間が共通に持つてゐる性質が同じような必要を感じさせて、そして、其處に心の一致が出來るのです。

我々以前に生活してゐた何代もの人々は彼等の必要を如何にして滿足さすべきかに付て、我々が今我々のために發見し與ふよりもより多くを學んでゐました。故に多くの點に於ては、我々の慾望に單に從つて居ることは結局我々以前の人々に從ふことになるのです。そして、其處には各人の心の完全な一致があります。其の他の種類の心の一致は、其の基礎を地方的に叉は人間性に持つて居るとは云へ、前述の食物に對する要求のように明瞭ではありません。

一地方人の好むものを他の地方人が必ず好むとは定まつて居ないし、一國の度量衡

の組織は他國の組織と同じでありません。そして、こう云ふ差を了解するためには、人間は自分の周圍の人々を模倣し、そして、習慣を造り、侮辱を避け、又は、超自然の力を恐れる傾向を理解しなければならないのです。『侮辱や、不贊成の言葉の壓迫に耐へるには大なる道徳力を要する。』とサムナー教授は云つてゐます。

『社會的常識、又は、社會的習慣は遊戯に耽ける子供の時代に進化する。會合することによつて寛大な心が養成される。最初は反對して居ても後に贊成するようになるのは、會合して居るうちに、其の仲間と同じ考へ同じ感情を持つようになり、同じ行爲をするようになるからである。』とボダルガス教授は云ひ、又、ジャストロー博士は次のように申ます。

『山間の住人、又は、平原の住人は自分等に對してどう云ふことが起るかと云ふことを見越して彼等の活動を決定する。たとへば、山は其の山に住んで居る人の職業と人格を造つて行く。英國人の島國根性は地理上の故ではなく、心理上のものだ。地方的

の價値ある習慣と云ふものは其の地方の位置から出來るのではなく、其の地方の住人の心の狀態から來て居るのだ。……集合的にものを表現する心の源は人間の群居的な習慣にある。群居して居る人々は皆別な考へを持ち、別な感じを持ち、別な行動をするものだ。……此の頃の學生がアリストットルよりもより多く自然力を了解し、利用し、制裁すると云ふのは、アリストットルよりもより優れた能力を持つて居るのではなく、過去の多くのアリストットルの經驗を利用して居るのだ。」と。

錯雜したる發達

特種の社會の社會心が特種の點に於て發達するのは錯雜した過程を經るのです。そして、其の過程を跡付けて見るには、泉となつて地上に現れる地下の水源を探るように、結果から、又は、他の材料から推測によつて跡付けて見るより外に方法はないのです。故に、全體的には到底明瞭でないのです。殊に、其の社會心の源が遠い過去にあるならば、其れを探ぐるのは猶更困難です。

たとへば、長い以前に自分が或る會に屬して居たとします。其の會を計畫した人は誰か？　又、其の會に於て、主もに話題になつたものは何か？　と云ふ、其の會に附ての重要なことは覺へて居ても、其處に集まつた人々の各々がどう云ふ動機で來たとか、何日の會には幾人集まつたかと云ふようなことに關する詳細の凡てを一々はつきり覺へて居るものではありません。社會心も亦さうで、其れが出來るに付ての要素の二ッ三ッは明瞭でも、其の詳細の大部分は時が經過するに從つてうすぼんやりして來てツイには消へてしまいます。で、社會が大きければ大きい程其の社會心の出來る複雜さは社會員の數以上の比例で複雜になります。歷史上の事實の源を探ぐつて見ようとする時には誰でも其れと同じような困難に出逢ひます。

社會心の發端が神秘に覆はれて居ると同じように、實は、其の結果も明々白々なものではありません。結果が其處にあることは明瞭です。けれども、泉の水が川の水と一緒になり、川の水が海の水と一緒になるように、一人の考へが、其の人の周圍の人

の考へと同じになり、周圍の人の考へが人間全體の共通思想と混合してしまひます。一度混合してしまつたものを區別することは出來ない、其れを認めることも困難であると云ふことになりませう。

社會心の種類

社會心が社會を造る土臺となつてゐることは前にも申ましたが、其の社會心の種類を區別しようとすることは困難です。で、此處では社會の大きさによつて異る社會心の如きは略して、社會心の持續して行く狀態に付て考へて見ませう。

社會心の持續期間

心の或る狀態は一時的であるに反して、或る狀態は永續的です。そして、此の社會心が造られる過程は敎室に於て最もよく見ることが出來ます。たとへば、敎室の窓の傍に居る一人の子供が窓の外の何かに心をひかれて、窓の外に顏を向けます。すると其れが其の子供の隣りに居る子供の注意を引き、其の子が、又、外の子供の注意をひ

き、ツイには敎室全體の子供が皆窓の方に顏を向けます。つまり、其の時の敎室全體の心は窓の外のもの丶上にあつめられたのです。一人から全體に及んで其處に心の一致が出來る、これが一時的の社會心です。

群集の浪を眺めて居ることは興味あるものですが、其の興味のある點は群集の身體の運動ではなく、其の群集の心が起す浪の動き方です。或る浪は小さく直ちに消へ、又、或る浪は大きく最高に迄ふくらんで行きます。ふくらんで行く其の浪に、もし、過激な分子が混合して居るならば、其の浪はものを破壞する處迄高くなつて行きます。

學校の運動場に於ても、亦、さうです。兒童の身體が活發に動くのは、兒童の心の現れです。計畫、望み、恐れ、牽引、嫌厭、勝利、失望、欺瞞、忠實、など云ふ要素がいろ〳〵の現象を現出する、つまり、一時的の社會心を構成するので、其れは丁度劇を見てゐるようなものです。それは單なる子供の遊戯ではなく、實際生活であるのです。

社會心、つまり、一致した心が持續する狀態は、敎室に於て、諧調させられる時の生徒の態度に見ることが出來ます。其の時間の最初に於て、或る不圖した出來事が起るならば、たとへば、或る非常に可笑しいこと、又は、生徒の心に非常な刺戟を與へるようなことがあるならば、其の時間中、どの生徒も〳〵完全には諧調し得ないと云ふことは經驗ある敎師の話です。

又、敎師が或る遊戲を計畫して列を組ませて敎室から運動場に行く途中、一人の生徒が其の列を破つたので、敎師が其の生徒を其の遊戲から除外しました。すると、生徒の中には小聲で敎師を非難するもの、除外された生徒を惜しむ者などがあつて、全生徒の心が支離滅裂になつて、とう〳〵其の遊戲はうまく行かない。敎師は立腹するし、生徒達は時間が來るのを待つて逃げるように走り出したと云ふ話もあります。

敎室に於ては、毎日々々異つたかたちの社會心が造られ、其の社會心の質によつて其の日の生徒の成績は定まることになるのです。ですから、前の晩芝居へ行つたとか

今日は珍しいことが町のうちにあるとか、選擧で人々が騷いでゐるとか、朝の授業時間中に訪問客があつたとか云ふようなことが、其の日の生徒の心の狀態を定めてしまいます。さう云ふ出來事が最初は生徒全體の心には何等の影響を與へなくても、二三の生徒が其の影響を受けるならば、其の生徒が他の生徒を感化し、感化された生徒が又、外の生徒を感化し、ツイには、全生徒が感化されてしまうのです。そして、其處に一ツの社會心が構成されるのです。誰もが氣付かないうちに其の社會心は構成されてしまつて、もう、どうすることも出來なくなつてしまうのです。

或ひは、又、卒業式の場合などに、生徒が芝居をするとか、他の學校と競技をするとか云ふことになれば、其れに參與する生徒達の心は全部其のことに占有されてしまいます。外の課業などは到底手につきません。けれども、こう云ふことは生徒と生徒の間に、又、生徒と敎師の間に友情が深くなり、彼等の間の社會心を發達させるよき手段となります。（つゞく）

世界一周旅行の途に夫を送つて

幼くして母に死別れ、其の後間もなく一家離散の悲運に遭遇した私の夫は八歳の時から自分の手で自分の衣食の道を立てゝ行かればなりませんでした。金物屋の小僧となつて釘拾ひするのが最初の仕事で御座いました。其れを振り出しに四十歳近くなる迄働いては書物を買ひ、貯蓄しては學校へ講義を聽きに行くと云ふ生活を續けてゐました。

私が始めて彼に逢つた時には、過去の苦闘を語るいかつい顔と數千卷の洋書がサンフランシスコのとある家の見すぼらしい地下室に輝いてゐました。世界の殆んどあらゆる最新知識に觸れてゐる彼と、母國の文字を讀むことすらも出來なかつた私とは余まりに知力の懸隔が甚しう御座いました。知力的に云へば、彼は成熟したをとな、私はまるつきり赤ん坊で御座いました。彼は私の知力を培養し成長させることを日々に勤めてゐました。私は、世間との苦闘のために萎むでゐる彼の愛情の芽を復活させることに朝夕心がけてゐました。

夢のやうに、或ひは自分とは無關係な異郷の空の出來事のように朦朧と覺へてゐた亡き母の愛撫の手を彼は徐々と思ひ起しました。

もの心覺へてから四十になる迄冷たい放浪生活を續けてゐて、それから始めて家庭に落付くことの出來た彼は此の世の中で家庭程居心のよい處はありませんでした。彼が最も嫌ふのは自分の家庭を離れることでありました。山海の珍味を積んだ他所の御馳走よりも、梅干一個を添へたうちの御飯を好みました。先日中は旅行をするに付ての用事で度々横濱へ行かればなりませんでしたが、他所で食事をする習慣を持たない彼は朝早く出て夕方歸つても外ではお茶一杯も攝らないのでした。買物のために或る日私も同行しましたが、朝うちを出たなり、もう、午後三時になるのに何か呑うとも食べようとも申

ません。私は食べたいには食べたいのですが、彼の心をよく知つて居りますので、相替らずの彼の流儀を心でほゝ笑みながらすき腹を東京迄電車に揺られて歸つて來ました。

　そんな風ですから、大抵のことでしたら、萬を以て哩數を數へる旅などには到底出る氣にはならないのです。けれども、今度出かけるには理由がありました。

　A氏は實業界に稀に見る高潔な御人です。幼少の頃から貧苦と戰はればならない運命であつた私共夫婦がもし、A氏と昵近になる機會を持たなかつたならば、私共の思想は今のやうなものでなく、非常に過激に傾いて行つたろうと思ひます。何かしら、爲さればならぬ性情を持つてゐる私共は、事實に於て、過激の方向に傾かうとしてゐました。けれどもA氏を知るに至つて私共の思想は一變しました。實に、千卷の書物よりも高徳な人の正しい行爲がより有効な教訓であります。

　世間には少しも名を出されずに、萬人の生活の安泰を計つて日も猶足らぬやうに默々として苦心され活動して居られる氏の態度を見ては、常に社會に向つてものを云つてゐる自分が恥しくなります。夫の云ふ『名を出したり、書いたり、しやべつたりする奴の多くは社會の泡だ』と云ふ言葉を私はA氏の御態度によつていつも考へさせられて居ます。

　其のA氏が御事業のために視察することがあつて海外を一周なさるに付て、夫は御同行致すようになりました。御助力したいと云ふ希望をもつて文字通り萬障を排して、四月十七日漸く横濱を出帆致しました。

　いつもながら東京驛の雜沓は恐しいようです。人の雪崩を恐れて居てはとても乘ることは出來ないので、其の雪崩の中に身を投じなければなりません。すると、もまれ〳〵て送る人も送られる人も皆バラ〳〵になつてしまいます。英國の兵隊が英國王の命を受けてカナダの或る一角から其處の住民を追ひ立てた時に、住民の一人のエバンジエリンが、混雜のために婚約者のゲーブリルを見失つて、花なら蕾の其の時から、髮は灰色になり、額には皺の雲が他界の夜明けを待つと云ふ年頃迄、ゲーブリルを探し歩いてゐた、と云ふロングフエローの哀詩を私は不圖思ひ出

しました。

見送人一同が船から出されてしまつてから、船がいよ〳〵岸壁を離れる迄の何分間かは困る時間です。甲板の上に立つ送られる人と岸壁に立つ送る人とは顔を見合せて居ながら遠くて話は出來ずお互ひに悩ましい思ひをしなければなりません。で、其の思ひを打ち消すためにと何處の誰が發明したものか、此の頃は色どりを美しくした紙紐（テープ）を見上げ見下す人が投げ合つて其の端を兩方で持つて別れを惜しみます。切れたと云つては又投げ、思ふ人の手へピッタリ届いたと云つては喝采し、あらぬ方へ外れたと云つては笑ひ、ワイ〳〵騒ぎます。數百條の五色の紙紐（テープ）が日光に輝き、微風に靡くのを始めて見た時には、私は別離を悲しむ人々の心をまぎらすにはよい工夫だと思ひました。

けれども、風にも切れる頼りない其の紙片で兩者の間を繋いで置かうとすることは本當に別離を悲しむ者のためには却つて苦痛であると云ふことを私は昨年米國へ行く市川房枝さんを見送つた時に既でに考へて居ました。甲板から房枝さんの投げた紙紐の端を見送りに來られた房枝さんのお父さんに周圍の人が持たして上げても、お父さんはいつの間にか離してしまつて、そんなものに關つては居られないと云ふ風に甲板上の房枝さんの姿を一心に見詰めては、『俺がさんざ抱いてやつたつけ』とか『あつち迄一緒に行つてやりたいなア』とか獨りでつぶやいて居なさいました。

私は、成程と思ひましたので、今度、夫を送る時には前以てあんな空々しいごまかしはよしませうと相談して置きました。無數條の人様の紙紐を眺めはしましたが、私達はとう〳〵一本も買ひませんでした。

行く先きは布哇からサンフランシスコへ渡り、米大陸を横斷しながら著名な數個所に立ち寄り、紐育へ出てキユーバへ行き、それから英國と歐洲諸國を巡り歸途南洋へ廻ります。

夫は本誌の編輯兼發行人としての署名人でありますから、海外へ出たことを私から皆様に一寸御報告しようとして大變長くなりました。行つた先き〳〵で面白いことがあつたら書き送るとは云つて居りましたが、大變筆不精な人ですから、どうかと危んで居ります。もし、來ましたなら誌上に掲載して、あちらの状況を皆様にも御知らせしようと思つて居ります。いつもの『編輯の後』に代へてこれを書きました。（四月十八日）

回山田嘉吉著　定價二圓五拾錢（送料十五錢）

新刊

現代社會學

目次

發行所　專修大學

取次所　東京市四谷區南伊賀町四一　婦人と新社會社
振替東京五三六八八番

本誌定價表

一册	六册	十二册
金二十五錢	前金 金壹圓四十錢	前金 金貳圓七十錢
送料五厘	（送料共）	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事■御送金の際には振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割増■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十一年四月二十三日印刷納本
大正十一年五月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人　大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會社
振替東京五三六八八

山田わか女史著　最新刊

女人と母

四六版本製
三百五十頁
裝幀美裝
正價金壹圓七十五錢
送料八錢

『家庭の危機』以下二十五編悉く女として人として母としての自覺を經とし、家庭生活の高調を緯とし、婦人勞働、女子敎育及び戀愛と結婚を最も健全な人生觀、則ち社會學的見地から織り込んだものが此の新著である。最も進步した婦人の立場から此の文明批評は確かに不健全にして有害な多くの婦人論を一掃する。

山中峯太郎著

姉妹の胸へ

好評三版

定價一圓五十錢（送料八錢）

姉妹の胸へ！より崇く新しき愛の胸へ！この書に含めるいのちありと信じてさゝぐ

發行所

東京市本鄕區春木町二丁目
振替東京八二一九

森江書店

山田わか子女史新著

新刊

家庭の社會的意義

四六判五〇〇頁洋布装函入
定價金二圓八十錢送料十二錢

婦人は必ず讀め

彗星の如く現れ、彗星の如く消え去る幾多の女流論客の中にあつて、獨り斬然として堅實なる地歩の上に堂々の論陣を張り、彌々婦人の新使命の爲に萬丈の氣を吐く者は我が山田わか子女史であります。本書は女史の所論の基調たる家庭の尊重、母性の擁護を經とし、婦人生活のあらゆる事象を緯として編みたる女史最近の論集で、家庭の進化、婦人問題と家庭、戀愛と結婚、婦人と教育、婦人と産業、婦人と政治、母性の革命、母性保護と新國民、現代思想と責任觀、家庭の使命の十編四十一章に分ち、眞に婦人必讀の新修養書であります。

發行所 東京神田區中猿樂町一七 近代文明社 電話九段二二五六番 振替東京五八五八六番



初夏のお用意は今……

品が良く、買ひ心地よく、その上價が安い、此の三拍子揃ふて居るのが三越であります、初夏のお用意を遊ばされねばなりません、お用意は此の便利な三越に限ります

◆五月の三越◆

◆特安夏切反物賣出し（二〇日まで）
◆五月人形陳列（四日まで）
◆夏丸帯陳列（二〇日まで）
◆金鈴社繪畫展覽會（[illegible]日より）
◆鈴仙陳列（九日より）
◆中形浴衣地陳列（五日より）
◆子供夏羽織陳列（十一日まで）
◆お召と小紋陳列（十三日まで）
◆夏衣裳陳列（[illegible]日より）
◆定休日◆十日◆二十五日◆

東京
越
三越呉服店